あさひ便り

平成 29 年 6 月 5 日　**NO．24**

新理事長就任のご挨拶

特定非営利活動法人あさひ
理事長　昆（こん）　善起（よしおき）

「NPO あさひ」の理事長を総会で推されまして、お受けいたしました昆善起と申します。
わたくしは福祉においては全くの素人ですので、他の理事の方々とスタッフの方たちのお支えにより不安ながら歩み出しをしたいと思っています。

以前、東京の町田市にある、知的ハンディキャップのあるグループホームでボランティアをしたことがありますが、２代目理事長という大任をすることに戸惑いを感じています。前任の島武代理事長が「あさひ福祉作業所」、「NPO あさひ」を立ち上げてこられた、とてもまねできない偉業を傍らで見てきた者としては、敷かれたレールに乗り、新たな事業を考えていらっしゃる次期理事長へのつなぎ役を為していきたいと思っています。

あさひ作業所でのボランティア活動をして 30 年近く、その間に若者であった寮生さん達も 50 代後半から 60 代へと成長しました。障がい者の成長は早く、今後 10 年のうちに彼らがこの地で生涯を全う出来るようにするには、何をしなくてはいけないのかを考えることが当面の課題になるかと思われます。現在、グループホーム「あさひテレサホーム」には寮生さんは 10 名、その内 9 名が隣接のあさひ福祉作業所で働き、1 名が他の作業所に通っています。これから入寮を希望するひと、あさひで働きたいひと、働けなくなるひとが出てくるでしょう。NP 0 あさひの課題は大きく重要です。

障害者を取り巻く環境は、現在どうなのだろうか。戦前はいてはならない存在、戦後も隠さざるを得ない存在。新憲法の下、福祉法が改革整備され、その存在が保障され認められるようにはなりましたが果たしてどうなのでしょうか。通所施設へ通う途中の若者が、警察官の職質に遭い、交番へ連れて行かれたことからパニックを起こし、数人の警察官に取り押さえられことから死亡した事件がありました。警察官に障がい者に対する知識と理解があったならば防げたことでした。また、相模原にある障害者施設での悲惨な事件は、戦前になら起こりえたかもしれないかと思わせるものでした。いまだにこのような考え方をするのかと、ましてやその障害者施設で働いていたものがと、自らの心の内を振り返ることになり、改めて障がい者への理解を広めていくことの大切さを感じています。

「NPO あさひ」はこの地域で、障がいを生きる一人ひとりを大切にした暮らしを支えるために立ち上げた法人です。それは同時に、障がいのある人も、障がいのない人も共に生きる地域でなければなりません。それには地域の理解と協力が必要不可欠であります。

あさひ福祉作業所では、四月と十二月に交流会を行っています、近くから遠くから多くの方がいらして下さって楽しい時を過ごしています。その機会をさらに増やそうと、NPO あさひでは「ぶーこっこ広場」という交流の場を設ける事業を計画していて、すでに少し動き始めています。そこでは子供から大人までが、そして障がい者と共にイベントを通して楽しい時間を共有し、何かを協働で作り上げられる場にしたいと考えています。「ぶーこっこ広場」には北アメリカ原住民のテント「ティッピ」を建てます、ヒヨコが２００～300 羽いる鶏舎を建て、ニワトリの生育過程が見られる場を子供たちに提供したいと考えています。

高齢化問題は、グループホーム「あさひテレサホーム」だけでなく、この地域の重要な課題でもあります。このことを「NPO あさひ」は地域の方々と共に考えていきたいと思い、そのための努力をしていきたいと思います。どうぞ、ボランティアの方々、賛助会員方々、引き続きご支援くださいますよう願いまして、ご挨拶とさせていただきます。昆　善起

特定非営利活動法人あさひ　役員名簿　平成29年５月１４日	
理事長	昆　善起
副理事長	矢板　力
理事	岡本　隆光
理事	島　武代
理事	永田　潔
理事	米川　崇
監事	鴨田　孝

あさひの八重桜

前理事長退任のご挨拶

特定非営利活動法人あさひ
理事　島　武代

6 年前の 2010 年 12 月、富士聖ヨハネ学園の小松園長そして米川職員のご尽力により、ＮＰＯあさひが設立しました。

路頭に迷った私のただ一つあさひ福祉作業所の精神を失わずに____この難題を乗り越えてＮＰＯあさひが設立できましたこと、今でも感謝の念でいっぱいです。

この 6 年間、力量のない私を、理事・監事・正会員の方々・賛助会員の方々のご支援により、紆余曲折ながら運営できましたこと、心よりお礼申し上げます

退任については、一年前に決意しました。
あさひテレサホームとあさひ福祉作業所の将来を考えますと、緊急を要する課題が多く私の器では、到底成し遂げることはできません。その一つは
４０年間個人経営としてきたあさひ福祉作業所をどのようにするか、継続していくための方策を考えねばなりません。

新理事長の昆善起氏はあさひ福祉作業所に３０年間ボランティアとして関わってくださっています。寮生の信頼は厚く、福祉・社会に温かいまなざしをむけ、不条理にたいしては毅然として行動なさるクリスチャンでおられます

新理事長のもと理事・監事の方々は、再任になりまして、正会員の方と共にＮＰＯあさひを充実すべく確認しました

力量のない私を支えてくださった皆様にこころより感謝とお礼を申しあげまして、退任のご挨拶とさせていただきます

この本を読んでみて

特定非営利活動法人あさひ
理事　岡本隆光

空が青いから白を選んだのです一奈良少年刑務所詩集
（新潮文庫）　寮美千子編

空が青いから白を選んだのです

たった一行の詩だけど、この詩を書いた少年（青年？）　が何を表現したかったのか、そしてこの詩を書いたことによって自分と関わる周りとの気持ちが共有出来たことによる変化。
そんな驚異の営みを、私はこの本から教わることができたことを幸せに思う。

3.11 東日本大地震のとき、被災した人々の心に深く染み渡ったのは音楽であったと言う。私たちはその時音楽にそんな力があることに想いを馳せる事ができた。

この本は詩で表現しているが、いろんな事が詰まっている。
共感も、疑問も、反感さえも果てしなく湧いてくる。それでも、人が表現することが、人と人が気持ちを共有出来ることが（理解ではないかもしれないが）どれだけ大切なことかをこの本＝詩の作者たち（受刑者）、奈良少年刑務所の教官、この本の編者（寮美千子）　この人たちが示してくれているように思う。

おかあさん？
あ　だれかくる
おんなのひとだ！
だれかの　おかあさんかな？
もしかして……ぼくのおかあさん？
きれいなひとだなぁ
ぼくのおかあさんも　きれいかな
しごとは　なにをしているのかな
やさしくて　ふわふわなのかな
どんなこえかな
ぼくに　にてるのかな
でも……
どんなかおしててもふとってても
いじわるでもはたらいてなくても
ゴツゴツしていてもおとこみたいなこえでも
おかあさんは　おかあさん
いちどでもいいから
かおをみせてよ　おかあさん
だきしめてよ　おかあさん
いちどでいいから
ぼくのなまえを　よんでよ　おかあさん
そしたら
ぼくから　つたえたいことがあるんだ
「うんでくれて　ありがとう」

空が青いから
白をえらんだのです
奈良少年刑務所詩集　　寮　美千子　編　より

あさひ交流会(お花見)のご報告

４月８日に春の交流会を開催いたしました。今年は小雨の曇り空でしたが、予定通りのプログラムを無事終えることが出来、当日足元の悪い中お越しくださった多くの参加者の皆様にも楽しんでいただけました。一つ残念だったのは、桜の開花が今年は 10 日ほど遅れて、当日には見ることができなかったことです。ちょうど見ごろの（4/20）状況をこの紙面で楽しんでください。

石井久明＆坂倉雅子
大きなおにーさん、おねーさんカップルです～！

私に会いに来てね～

田ヶ谷雅夫先生のご講演

マンドリン演奏

ルッジート・ムジカの演奏

あさひ活動　感想集　2017.3.10～2017.3.12

慶應義塾大学医事振興会より

【看護医療学部１年　小林瑞希】

≪全体の感想≫

　あさひ福祉作業所では、普段私たちが経験できないような作業が体験でき、とても貴重な経験となりました。何よりも作業所で働いている方々全員が、作業所内での自身の役割に誇りを持っているように感じられました。その理由として二つほど挙げます。

　まずは作業所内にいる皆さんが、「働いている手」をしていらしたことです。私たちの手よりも厚くて太い指は、短い期間ではもちろん作られません。毎日体を張っているのだと、私は感動しました。もう一つは自己紹介の時に、役職名を述べてから名前を言ったことです。例えば、「卵磨きの〇〇です」という表現です。自分が毎日丁寧に卵を磨いているのだ、と伝えられたように思えて、とても感動しました。

　私はこのあさひ福祉作業所にお邪魔させていただいたのは初めてですが、一度きりにしたくありません。もう一度、作業所の皆さんにお会いしたいし、もちろん今回の活動でできなかった作業も経験したいです。同時にたくさんの人にあさひ福祉作業所のことを知ってほし

いです。今回は本当にありがとうございました。私の語彙力では表現しきれないのですが、自分の中での価値観が大きく変わった貴重な体験ができました。次回は後輩を連れて参加させていただきます。
≪抱負≫
私の頭の中はまだ看護の知識より、一般的な知識がほとんどを占めているため、今はどちらかというと医療者というより、医療を受ける立場に近い場所にいると思います。今後、実習や勉強によって医療者に近づくにつれて、医療者としての「慣れ」が自分の中で生じると思います。しかし、「慣れ」たままでは患者さんに寄り添うことはできないと私は思います。そのために、今感じられる世間一般的な視点を忘れることのない看護師になりたいです。

【看護医療学部１年　小瀬良唯】
今回初めてあさひ福祉作業所、テレサホームでの活動に参加しました。ここでは個人が本当に大切にされていて愛に溢れたとっても暖かい場所だと心から思いました。久しぶりに心が洗われたような気がします。ひとりひとりが自分に合った仕事をし、「仕事をしている！」という実感をもって生活できる。だからこそ皆さんが本当に生き生きしているということがわかりました。私の中で障害者福祉の価値観が変わりました。私が理想としている看護は目の前の人と全力で向き合うことです。あさひではそれが実現されていて感動しました！忘れそうになったときはここの施設の人の顔を思い出して頑張りたいと思います。今回は本当にありがとうございました。

【看護医療学部２年　中川萌】
私は H27.3 月に初めて、あさひ福祉作業所での活動に参加させていただきました。私は、初めての施設共同生活をあさひ福祉作業所で体験することができて良かったと、心の底から思います。なぜなら、利用者の皆さんが、自身の行う仕事を一生懸命に、自分の「役割」として行うことができる環境ができていたからです。
そのような環境がある背景には、もちろん、障がいの程度や季節によって変化する作業の内容で、「誰に」「どのような仕事を」など、個別性に応じて対応を考えていることがあり、スタッフの方の果たすべき役割は大きいと思います。あさひ福祉作業所で働くスタッフの皆さんは利用者さんのことを良く観察し、理解しようとしているようにみられました。さらには、単に「利用者」として見ているのではなく、「仕事仲間」として自然に関わっている様子がみられました。私は、上記のような関わりがあるからこそ、利用者さんの個別性に応じた仕事を配分することができ、利用者さんもその仕事の中に自身の「役割」を見出すことができるのだと、今回の活動を通して考えました。
私は将来、看護師として病院で働きたいと考えています。病院には、そこにいる背景はもちろんのこと、様々な方がいらっしゃいます。この方々と関わる際に、あさひ福祉作業所で私が素敵だなぁと感じた点、つまり「個別性」を重視したケアを考えること、また「看護師

対患者」関係である前に「人間対人間」の関係であるという看護理論に基づいた関係を築いていくことを実践できる看護師になりたいと、改めて考えることができました。

【看護医療学部３年　仲西あゆみ】

今回初めてあさひ活動に参加しました。あさひに到着し、利用者さんと顔を合わせた瞬間、利用者さんが満面の笑みで私たちを迎え入れて下さったことがとても印象に残っています。その笑顔を見て、あさひの皆様はとても楽しく生活をされていらっしゃるのであると感じることができました。

利用者さんは皆一人一人個性と特技を持っていらっしゃることを知ることができました。一人一人に個性がある中でも、その個性を活かしながら、共同生活を送っていると考えました。その個性を活かせる仕事を担ったり、利用者さん自身がやりたい仕事を行ったりと、一人一人が自分らしい生活を送れているように感じました。長い共同生活の中では、楽しいことばかりでなく、辛いことなどもあったと思います。しかし、様々なことをスタッフさん、利用者さんの皆で乗り越えてきたからこそ、笑顔があふれる温かいあさひの雰囲気があるのではないかと考えました。^

私は将来、その人が持っている生きる力を活かす看護を行いたいと考えています。患者さんに対して何かしてあげよう、とだけ思うのではなく、その方の強みは何かを常に考えていきたいと思います。そしてその強みを活かして患者さんが患者さんらしく生きられるようなケアができる看護師になりたいと考えました。

最後になりましたが、あさひのスタッフ・利用者の皆様、私たちを温かく迎え入れてくださり本当にありがとうございました。とても素敵な時間を過ごすことができました。

ぶーこっこ広場のお披露目会

―　広場作りへのお誘い　―

私たちは、北杜市高根の地で　あさひ福祉作業所,ぶーこっこ,の名のもと、障害者の寮生たちを中心に、地域の人々と共に生活を営んできましたが、より一層の活動の"場づくり"をしていこうと考えて来ました。

二年前には、その活動資金として"ぶーこっこ基金"を提案し、協力を呼びかけた結果、本当に大勢の方々から沢山の応援をいただきました。
そして今回ようやく皆様に"ぶーこっこ広場"としてお披露目を出来るようになりました。

日時 ： 6 月 18 日(日)12 時～14 時
(少々の雨でも行う予定です)
場所 ： ぶーこっこ広場
山梨県北杜市高根町村山北割 86-6　TEL　0551-47-3950

"ぶーこっこ広場"お披露目といっても、実はこれから作っていくのです。何よりも共にやっていこう、という方々を必要としています。

植木屋 ： 花木、ハーブ、芝生、花などの植え付け、手入れ、

鍛冶屋 ： 火を使うことの諸々　かまど、囲炉裏、窯、燻製器など

百姓 ： 稲、野菜、果樹

大工 ： ベンチ、テーブル、舞台

食いしん坊 ： あさひや地元の食材での美味しいもの作り

遊び人 ： 子供達、大人子供と遊びの達人を目指して

瓦版 ： ぶーこっこ広場の広報者、記録者

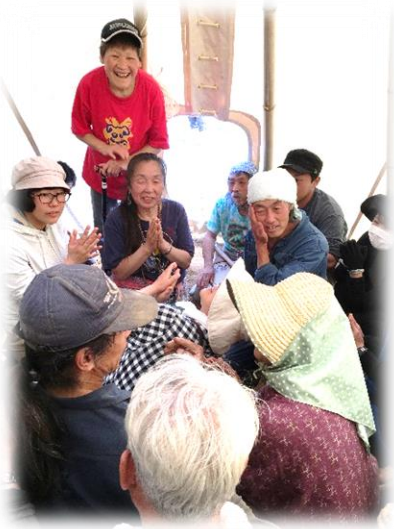
その他いろいろ考えただけ、思い付いただけ、やれることが出てきます。
こんなことをやってみたい人、もっと違うことをやってみたい人、手伝いたい人、ヒマをつぶしたい人、役に立ってみたい人、みんな集まりませんか？！

ぶーこっこ広場の今の様子

　雲柱社の皆さんのワークキャンプでの参加をいただき、芝張りからティピーの組み立てまで進みました。基本的な植栽も終わっており、少しずつですが見える形ができてまいりました。あとは、広場という言葉通り遊びまくるのみです！今がチャンスですよ～あなたのアイデアが実現します。

ワークキャンプで“ぶーこっこ広場”に参加いただいた雲柱社の皆様と一緒に！

夕暮れの西日にたたずむ完成後のティピー



♪ティピー製作者の日橋深雪さんと共に♪

午前中は芝張り！

芝張りとティピーで広場もこんな感じになっています。

暑い中大変ですね～

八ヶ岳晴れでの作業風景！絵になりますね～♪

★第 16 回あさひ交流会（もちつき）のお知らせ★

日　　時　平成２９年 12 月 9 日（土）
午前１０時～午後２時
会　　場　あさひテレサホーム
あさひ福祉作業所
山梨県北杜市高根町村山北割 86-6

特定非営利活動法人あさひ　　あさひテレサホーム

〒408-0002　山梨県北杜市高根町村山北割 86-6　　http://www.asahi-teresa.com
TEL 0551-47-3950　　FAX　0551-47-4414　　asahi-fukushi@cd.wakwak.com

賛助会費（５０００円）＆寄付金等　：　特定非営利活動法人あさひ
★郵便局振込★　00220-1-　98254　　★他銀行振込★　当座　０二九　0098254

編集者：中山　正博